

平成30年度 第8回 小野申人といきいきトーク

と き	平成30年2月4日（月） 19時～20時30分
と ころ	府中市立第一中学校
テ ー マ	子育て・教育、地域づくり、防災
出席者	コミュニティ・スクール推進委員：9名 小野市長、九十九健康福祉部長、若井建設産業部長、 小寺課長、門田学校教育課長

《子育て・教育》

地域と学校、PTAの関わり、CS

- ・ 中学生になり、地域の方との関わりが少なくなっているが、学校のイベントに地域の方が見に来てくださり、地域と学校の壁がなくなっている。この関わりは大事だと感じる。
- ・ お祭りのとき、地域の方が先生より怖い指導をしてくれた。親でも怒りにくいところがある最近の子どもを地域の方が怒ってくださり、助けていただいていると感じる。
- ・ 両親共働きの家庭が増え、子どもをみるのが難しい中、地域の方と子どもが話せるのは大きい。
- ・ あいさつ運動が定着し、子どもたちのあいさつが当たり前前に根付いている。地域の方からもよくあいさつをすると評価してもらっている。
- ・ PTA役員をすることで負担は増えるが、やるからには楽しみながら、自分たち自身の世界も広がり、子どもたちの成長にもつなげていく。
- ・ 志の教育で発表した「CSを使い、自分たちの力で地域とともにきれいにしよう」という発表から地域の奉仕活動が実現した。
- ・ 奉仕活動など、子どもたちが主体となって企画、地域と連携し協議をしている。話がまとまらないこともあるが、その課程を踏まえながら形にしていくのが非常に大事。
- ・ CSで育ってきた子どもたちの地域の行事に対する視点が変わってきている。すすんで手伝ったりと地域で活躍している。
- ・ 子どもにもCSの話をもっとするべきと思う。CSで目指しているものや小中一貫教育のことなど。それを受けて子どもが生徒会でよりよくするアイデアを出す。
- ・ 府南学園5校の生徒会で府中明郷学園に募金活動をしようと企画し、アイデアを出し、最終的に届けることができた。そういう企画ができるような土壌や雰囲気を作っていきたい。
- ・ 他県でCS専門の職員を雇っているところがあった。市の予算で各学校へ事務で+1名配置されており、その方たちは異動しても同じ内容の仕事なので、その人に相談すれば何とかなるという人材が複数同時に育っているのがいいと思った。
- ・ 子どもが府中を離れることがあっても、CSとか地域の人のことを子どもがしっかり覚えていて、戻りたくなくなるような取り組みをすることが一番CSをやる意味だと思う。「戻りたくなくなる府中」が重要だと思う。

CSを始めてからある学校で取られたアンケートの「地域が好きですか」という問いに、9割くらいから好きと返事があったと聞いた。これからさらに進化していくような取り組みを小学校～高校と連携してすることで、府中に誇りを持って、ここでがんばろうという子どもが育っていく。

市長

働き改革における先生の負担軽減

- ・ 国で月45時間という方針が出されたが、現場の意見を汲み上げた結果、先生方の仕事が減るのならいいのだが、何もせず減らすということにはできない。その方策はどうか

かなり前から仕事を減らしていくことはしていて、これ以上減らせないところにあるが、地域との連携の中で、地域で支えるから先生は教育課程に専念してほしいというメッセージをCSの方法から汲みとれ、その方向で働き方改革と同時に教師が本来すべき仕事に専念できる環境を作ることができる。

後は人を増やすことへの要望。全国的なうねりの中で、部活動の指導員などを少しずつでもいいから機能化させ、教育委員会が橋渡しをして、国が出している施策を使い、学校を少しでも教育課程に専念でき、そのことで子どもにいい表情で向かい合ってもらえる環境を作っていく。これが府中市の教育の環境づくりになる。

課長

セーフティネット

- ・ 経済的に困っている子どもも絶対にいる。地域の中で共有できていたらいい。

子どもの貧困、ネグレクトや心配な家庭があるかもしれないが、今、スクールワーカーが県費でついている。来年度は専門的な資格をもつスクールソーシャルワーカーを市費でつけ、家庭に入ってもらい、家庭にあわせた時間でできるだけ早めに子育てに不安を持っている方のフォローしていけるように考えている。また、そうすることで、先生方の負担軽減にもなると考えている。

今、市内でも子ども食堂が2か所あり、学習支援もしている。まだ取り組みを始めたばかりだが、そういったところでも支えていく必要がある。

市長

《防災・災害》

- ・ 学校では、防災教育と避難訓練を行っている。防災教育では、全校集会の場で地域の消防団が防災のことを考えて動いているという話をし、県から配られたパンフレットなどを見せながら自分たちができることを考えようと話した。避難訓練では、地震の発生を想定し、机の下に隠れ、次に火災も発生したというふうに複合的に消防署やアルソッ

クとも連携して行っている。

- ・ M7クラスが起これば、液状化や芦田川の氾濫など芦田川の土手を交通手段として使用することは不可能になる。そうなったときに、学校や市の行政はどうあるべきかと考えておいてほしい。子どもの通学もままならず、家もなくなる。

広島県は、急傾斜崩壊地域が多い地域で、府中市も多い。警報が出たとき、どう避難するか。各地域の自主防災や訓練に、市も協力するなかで一緒に取り組み、自分たちの住んでいる地域が土砂災害、浸水、川の氾濫など何に気を付けるのか、自分の地域を知ってもらうことが大事。

また、昨年の災害を受け、川の水位観測計を増やすようにした。川を見に行かなくても、インターネットでリアルタイムに分かるようになっている。

市長

- ・ 平日に大きな地震があった場合、一中は山の上で、通学路の崩落状況も分からない中、子どもたちを帰すわけにもいかない。通信網も連絡網も取れなくなった場合は、どうやって保護者に案内し、どこで過ごすのか。水や食料も必要。想定外の災害が起こっているなか、どういった対応を考えているか。

まず、それぞれ身の安全をさぐる。学校先生には子どもたちの安全を確保してもらいながら、避難する。状況によりグラウンドか教室になるか。水や食糧は次の段階になるが、避難場所に常備していないため、配送できる状態なら配る。後は、連携をどうとっていくかというのが大事になる。

市長

防災メールは優先的にできるため、災害情報等を学校から配信することはできる。保護者の方に伝えられる。

課長

- ・ 緊急エリアメールは、市外で働いていると、府中市の情報が入らないため、府中市のメール配信と同時にさせていただくのがありがたい。7月のときは、同時にあり、すごく助かった。市外にいると府中市の情報が手に入らない。

基本的には緊急エリアメールと府中市の防災メールの両方で情報を流すようにしている。

課長

- ・ 防災無線を市全域で工事されているのか

防災行政無線を市内全域で工事を行っている。今年度は増設。来年度は古くから建っているものをデジタルに変える工事を行う。

課長

- ・ 荒谷の碎石場跡のカドミウムについて、去年の豪雨災害のときもくずれたが、そういう場合に、危険性がすぐに市民に伝わるような連絡手段が確立されているか。

大規模な崩落があり、緊急性を要する場合は、まず、井戸水について注意喚起する。上水道については、検査している。

市長

飲料水等に影響がある場合については、下流域の国交省であるとか、福山市、府中市で対策の会議を持ち、そこで情報を共有し、安全対策を図るという体制はできている。

昨年の荒谷の碎石場跡地崩落は、県、市で復旧工事に当たるよう対策をしている。

部長

《最後に》

この地域は、地域とのつながりがずいぶんある。CSは、言われたとおり、今年来年で結果を出すものではない。あいさつ運動、見守り、どれをとってもすばらしいことばかり。必ず子どもにつながる。今までの取り組みも含め、地域、企業、行政と連携をとるなかで進めていただければと思う。

市長